

建築研究所ニュース



平成 23 年 9 月 21 日

つくばで東日本大震災を経験した 20 名の海外研修生は 1 年間の研修を終えて帰国の途へ

昨年10月に開講した第51回国際地震工学研修は、1年間の研修を修了し、9月15日に茨城県つくば市の建築研究所で閉講式が行われました。参加した10ヶ国20名の研修生全員が修士号学位を取得し、国際協力機構（以下JICA）筑波センター梅崎次長、政策研究大学院大学（以下GRIPS）岡崎教授らの来賓が列席するなか、建築研究所伊藤理事から修了証書が研修生に手渡され「皆さんが研修で習得された経験、知識及び東日本大震災で研修生の殆どが体験したことの無いような強い揺れや、東北等の研修旅行で被災地を見学し体験したことを生かし、必ずや母国の発展に寄与するものと期待しております。」と挨拶しました。

研修生を代表してセルヒオさん（エルサルバドル・中央アメリカ大学ホセシメオンカナス校・助手）は「この研修で学んだ知識、技術や今回東日本大震災を自分の肌で体験したことにより、研修に対する意気込みがより一層深く強いものとなりました。また、講義や研修旅行等で体験した貴重な経験を今後も大いに活用し、母国の発展に貢献できるものと確信しています。」とお礼の言葉を述べました。

9月16日には東京・六本木のGRIPSにおいて、建築研究所村上理事長から研修生に修士号学位記が授与されました。母国を遠く離れ、東日本大震災の被災地視察を含む1年間の日本での研修生活を終えた20名の研修生は、それぞれの想いを胸に帰国の途につきました。

「国際地震工学研修」は、1960年に開始以来、今回の修了生20名を含めて、現在79ヶ国から1,034名の研修生を受け入れています。国際地震工学研修は、JICAと協力して行っており、GRIPSとの連携により、所定の単位を取得すれば、修士号の取得が可能な研修となっています。この他、国際地震工学研修以外の約2ヶ月程度の様々な研修を含めた修了生の累計は、これまでに97ヶ国計1,525名を数えております。

ご面倒ですが掲載の折には、その記録を留めるため、右記問い合わせ先へお知らせ下さい。

(内容の問合せ先)

独立行政法人建築研究所

所 属 国際地震工学センター
管理室長

氏 名 黒 澤 肇

電 話 029-879-0678(直通)

E-mail kurosawa@kenken.go.jp

<参考1：研修生の出身国名（10ヶ国=20名）>

中国（2名）、エルサルバドル、インドネシア（4名）、
ジャマイカ、ニカラグア、マレーシア（4名）、ミャンマー、
ペルー（2名）、フィリピン（2名）、トルコ（2名）

<参考2：関係写真>

(1) 第51回 国際地震工学通年研修 閉講式 (23,9,15)

①建築研究所伊藤理事が研修生に修了証書を授与

(右は JICA 筑波・梅崎次長)



② 研修修了生及び出席者



(2) 政策研究大学院大学 (GRIPS) ・学位記授与式 (23,9,16)

- ① 村上建築研究所理事長(左から2人目)が研修生に修士号学位記を授与



② 修士号学位を授与された研修生20名と研修関係者

